



# プロジェクトニュース



## シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト

「エボラ対応の経験を忘れず、プロジェクトに活かす  
- シエラレオネ地方自治地域開発省大臣が講演 - 」号

2017年7月11日号 (Vol.43)

7月4日、JICAの招へいプログラムで訪日された、シエラレオネ地方自治地域開発省カイカイ大臣の講演会がJICA本部で開催されました。同地方自治地域開発省は、JICAが協力している「カンビア県地域開発能力向上プロジェクト」のカウンターパート機関です。同大臣は、2014年のシエラレオネにおけるエボラウイルス病の大規模流行時、東部州駐在大臣としてエボラ被害者に熱心に支援したことで知られています。

今回の講演会では、同大臣に「シエラレオネのエボラウイルス病の大規模流行時の対応と、本プロジェクトへの教訓の活用」について話をいただきました。講演会のお話を振り返ります。

2014年、当時東部州駐在大臣であったカイカイ大臣自身は、ウイルスの拡大を防ぐため、罹患者の隔離、症状のない者への健康監視、地方部で行われていた遺体を洗う習慣を控えるなど、エボラウイルス病対応の陣頭指揮を執りました。また、罹患者やその家族への心身のサポートを推進し、エボラウイルス病から回復した人々に対して、自ら証明書を手渡すなど、生存者がコミュニティに戻れるよう、偏見や差別意識の払しょくに尽力しました。

最初のエボラ患者は、野党勢力の多い南部で確認されました。その後、エボラ患者は増えていきました。「与党が次の選挙のために、野党票を減らすための画策だ」と、当時、エボラウイルス病のことを信じない人たちが多かったそうです。流行当初、多くのエボラ患者は茂みの中で亡くなっていったそうです。

日々緊張感あるエボラ対応の説明の最後に、大臣から「エボラ危機の緊急対



カイカイ大臣の講演

応時には、政党、民族、宗教を超え、地方自治体や伝統的なリーダーと共に、草の根レベルでコミュニティにエボラ予防と適切な対応を働きかけることが非常に有効であり、重要だった。」という教訓が共有されました。

「本プロジェクトで作成支援をしている「地域開発事業実施ガイドライン」（以下、「ガイドライン」という）に、私自身の経験も、反映されています。」と大臣は強調しました。この「ガイドライン」は、自治体、住民代表者、伝統的リーダーらが協働する地域開発事業での、各役割や実務の流れやそれぞれの役割が明確にしたもので、住民との協働の仕組みを重視しています。

「この『ガイドライン』を自治体のみならず、ドナーや国際協力機関に普及し、地域開発事業のプロセスに活用することで、エボラウイルス病を含めた疾病の流行や、災害に対する地域社会のレジリエンスを高めることになると考えています。」

大臣の実体験に基づいた自身の問題意識と、本プロジェクトの取り組みが統合され、地域社会による次の災害への備えが強化されることを心から願います。



エボラ危機時、シエラレオネの  
ルンギ国際空港に設置された検疫室

以上